

ライブベイトを用いた釣りによるオオクチバスの効率的な捕獲

山本充孝

1. 目的

琵琶湖北湖でライブベイト（活き餌）を用いた釣りによるオオクチバス（以下、バス）捕獲駆除の可能性を検討した。

2. 方法

調査は竹生島、多景島の島周りで2023年5月～7月に行った。

釣りには、ルアー竿を用いて道糸にPEライン0.8号、ハリス（リーダー）2.5号、針は管付チヌ5号を用いた（図1）。釣り方は基本的にはルアーでバスを釣るのと同様に障害物や底付近に口掛けしたウグイ（当場で種苗生産）を提示し、当たりがあった場合には、しばらく待って十分にライブベイトを飲み込ませた後に、巻合わせしてフッキングするように行った。捕獲したバスは体長・体重を測定して、CPUEを算出した。

3. 結果

釣りのCPUEは、1時間当たり尾数では平均2.8尾/h/人（0.9～6.3尾/h/人）、重量では平均3.2kg/h/人（1.6～8.8kg/h/人）であった（図2）。また、バスの平均体重は、本調査は産卵期に産卵適地の浅場に集まるバスが対象であったため、徐々に小型化していく傾向が認められた（図3）。また、7月は小型のバスが多く掛かるため効果的ではなかったことから、実施時期は産卵期の初めである4月から5月がよいと考えられた。

効果的な駆除手法である刺網を新たに実施するには刺網の準備等に多額の初期投資が必要で、その点で釣りは手軽に始められる利点がある。今回と同様のライブベイトを用いた釣りによって、熟練者の場合は大型のバスを20～40kg/日/人以上の捕獲量が得られていることから、工夫次第で釣りによっても外来

魚駆除の捕獲手段になる可能性があると考えられた。



図1 活餌釣り仕掛けと餌のウグイ

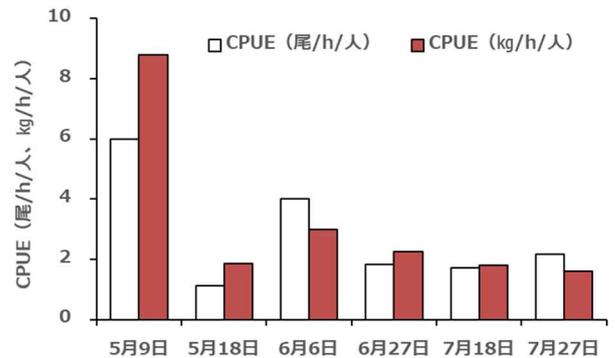


図2 釣りによるオオクチバス釣獲 CPUE

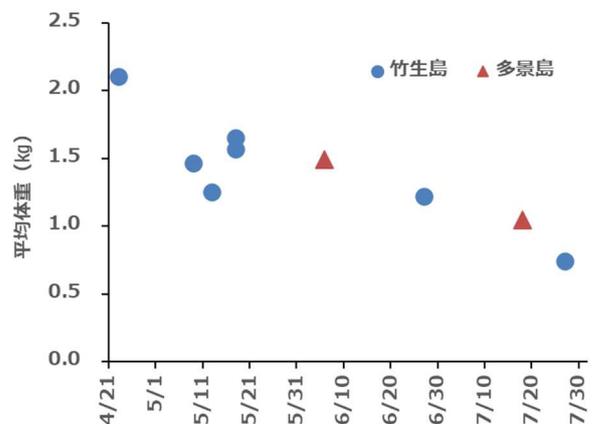


図3 釣れたオオクチバスの平均体重

*本研究は水産庁からの委託事業「効果的な外来魚等抑制管理技術開発事業」の一部として実施した。